田中茂範

はじめに

本書では、英語の最も重要な語として基本動詞、前置詞、名詞、副詞、形容詞の約 190 語を取り上げます。

ここで取り上げる約 190 語は、英語の核心部分（基盤）であることから、Common Core と呼んでいます。初級者か上級者かにかかわらず、最重要な語たちです。

以前、同時通訳のプロの方々に講演した際、英語の学びで何が一番難しいかと問うたところ、ほぼ全員が基本語であると答えました。steal や plagiarize よりも take が難しいということです。common（共通の）という形容詞は「レベルに関係なく共通して」という意味合いで用いています。

さて、基本語には、基本動詞だけでなく前置詞や名詞や副詞も含まれます。これまで、基本動詞や前置詞については個別に紹介してきました。全体として common core となる単語を一気に取り上げるのははじめての試みです。その細かな内訳は、下の通りです。

基本動詞

get, take, give など 50 個の動詞を選び、それぞれについて解説しました。基本動詞の世界を探索できるよう読み物風の解説をしています。

基本形容詞

common core となる 80 項目をセレクトして、典型的な用例と共にスッキリと解説を行っています。

基本前置詞

out, away, up など空間的な副詞を含め、全部で 26 個を取り上げます。個々の前置詞の全体像がわかるように、豊かな用例をあげるようにしました。基本動詞と同様に、前置詞のマスターのコツは、本質的な意味としてのコアをイメージで捉え、それをさまざまな例文に応用していくことです。

基本副詞

rather, yet, already, well など15 個の基本的な副詞を扱います。これらの語は、ふつうサラッと学ぶだけで、体系的に全体像を見る機会はないでしょう。そこで、ここでは、副詞の「働き」に注目して、それぞれの使われ方を見ていきます。

基本名詞

way, matter, field など多義的なものを 20 個選びました。訳語を見ると無関係な用法がひとつの名詞にあるような印象を受けますが、イメージを利用しながら、意味を関連づけていくスッキリ理解できるでしょう。

本書は common core となる語から成る単語帳です。それぞれの語の持つエッセンスをわかりやすく解説しました。本書の内容をマスターすれば、英語力が飛躍的に向上するはずです。ぜひ、何度も読み直し、ここで示した内容を自分のものにしていきましょう。

なお、本書ではコアとかコアイメージを重視しています。一言でいうと、基本語にはたくさんの異った意味があるのではなく、共通の意味（イメージ）があり、それがいろいろな状況に応用されます。ここでいう共通の意味のことをコアあるいはコアイメージを呼びます。

田中茂範

Contents

PART 1 動詞

section 1 基本動詞 p.5

section 2 似たもの動詞 p.59

PART 2 基本前置詞 p.115

PART 3 基本名詞（多義） p.185

PART 4 基本副詞 p.227

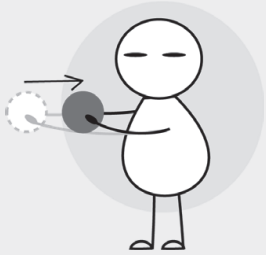
PART 5 基本形容詞

section 1 反義語 p.259

section 2 類義語 p.299

core image

take



何かを自分のところに
取り込む

He took the passage from the Bible. だと「彼は聖書から一節をとった（引用した）」ということですが、聖書から自分の表現に取り込んだという感じですね。

Mary took first prize and gave a speech. の場合は「メアリは一等賞をとり、スピーチをした」ということですが、一等賞を受け取った（自分のところに取り込んだ）ということです。

そして「取り込む」というイメージは **She's going to take some cold medicine.**（彼女は風邪薬を飲もうとしている）という状況でも使われます。

では、**He is taking a picture of his meal** はどうでしょうか。食事に向けてカメラを構え、シャッターを押すと、食事の模様がカメラに取り込まれます。だから **take a picture** なのです。

Let me take your temperature. は「体温を測らせて」。日本語の「写真を撮る」と「体温を測る」は無関係な表現ですが、英語では同じ **take** です。体温計を体に当て、体温を数値として取り込むと考えれば、両者に共通性があることがわかります。

I take the train to work. は（仕事には電車に乗って行く）。**take the train** は「交通手段としてバスや自動車ではなく、電車を選択肢として自分のところに取り込む（＝選ぶ）」ということです。

Take me to the ballpark.（私を野球場に連れていって）の take も、ある人が私の手を取って（つまり、取り込んで）、そして野球場まで一緒に移動する、というイメージです。

Don't forget to take an umbrella when you go out.（出かけるときは傘をもっていくのを忘れないで）も「傘を手にして出かける」ということです。

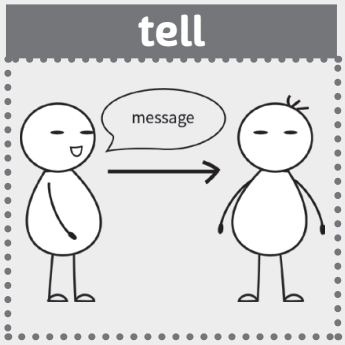
It takes three hours to get there.（そこに行くのに３時間かかる）という用法があります。この「時間を必要とする」という take も、どこかに行くことが、時間として 3 時間分を取り込むというイメージから、「3 時間を要する」という意味になるのだと理解できます。

take には take a walk（散歩する）、take a break（一休みする）、take a look（ちょっとみる）などの使い方もありますが、これは、a walk, a break, a look という行為を取り込む（take する）ということです。

core image

ある内容を言う

What did he say?
（彼は何と言った？）



相手に内容を伝える

Tell me the truth.
（本当のことを言ってください。）

say

say のコアは「ある内容を言う」です。

say は「言う中身(内容)」を強調する動詞で、Just say “Cheese.” といわれれば、”Cheese.” と答えます。

say の名詞形に、a saying というのがあり、「成句、諺」の意味になりますが、内容を重視する say の持ち味が生かされていると思います。

What did he say? だと「彼何と言った？」ということで、やはり、言った内容に関心があります。He talked a lot, but didn't say much. だと「彼はいろいろ話したけど、たいしたことは言っていないよ」ということです。

「まったくその通り」という際にも、内容に関心があることから、You can say that again. となります。「わかったから、もう言わないで」だと OK. I understand. Say no more. と表現します。

tell

tell のコアは「相手に内容を伝える」です。

内容の伝達がポイントとなります。I'll tell this to you.（君にこのことを伝えよう）が典型例です。内容の伝達なので相手が必要で、会話で Tell me. がよく使われますが、「ねえ、教えて」という意味合いです。

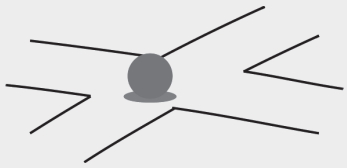
Tell me, what did you do last night?
（ねえ、教えて。昨夜は何をしたの）

I'll tell you what. は I'll tell you what we can do.（何かできるか教えてあげよう）の省略形で、ここでも相手に内容を伝えるという tell が生かされています。

「前に言ったように」という場合も、say は内容だけを問題にするため as I said before となりますが、tell は「誰かに伝達する」ということから as I told you before と you を必要とします。Are you telling me? だと「そんなことがよく言えたもんだ」という意味合いで使われます。me を強調して Are you telling ME? といえば「私に言っているのかい？」といった感じ、I'm not telling you. だと「教えてあげないよ」といった感じです。

core image

at



…のところに（場を表す）

at は「…のところに」、つまり「場」を表します。空間（in）や面（on）としてではなく、単なる「場」としてとらえる時に使います。Let's meet in the station. は「駅の中で会いましょう」ですが、Let's meet at the station. だと「駅の（ところ）で会いましょう」というふうに、漠然とある「場」を表すことになります。

at「場」の展開

活動の場

He is still at school.
（彼はまだ学校にいる）

「school（学び舎としての学校）という場で」ということから「学校で（学んでいる）」という意味になります。He is still in the school. は単に「彼はまだ（建物としての）学校にいる」という意味です。

目標・的

shoot at the enemy（敵を目がけて発砲する）

Look at me.（私を見て）

at は場に焦点を定めて「目標」や「的」を表すこともできます。一般的に「at ＝点」ととらえられているのは at のこの意味です。

状態

The flowers are at their best.（花は今が一番の盛りだ。）

花が「ベスト」というところにある。

瞬間

at first sight（初見で）

初めて見たところ、その瞬間ということです。

年齢

at the age of **twelve**
（12 歳の時に）

12 歳のところで

価格

at a low price（安価で）

「安い額」のところで

時間

at noon（正午に）

at lunchtime（お昼時に）

at night（夜に）

点的な時間、少し幅のある時間を表し、焦点の当て方によって時間の幅も変わってきます。at は必ずしも「点」ではありません。

Challenge

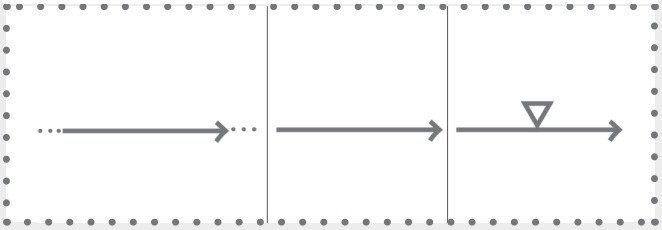
We met at the lake 50 years ago.
Look at the woman at the gas station.
She is at table ready to eat.
I'll call you at midnight again.

コア

time

流れゆく・長さとしての・限定された

時間



time はもちろん「時間」ですが、流れ行く時間（経過する時間）、長さとしての時間（所要時間）、限定された時間（特定の時）などの意味に展開します。

流れ行く時間

時間

Our economy will get better as time goes by.
（我が国の経済は時が経つにつれてよくなるでしょう）

流れ行く時間

（量的にイメージする）時間

We still have a lot of time.
（まだ時間はたくさんある）

長さとして把握される時間

所要時間

I've studied biology for a long time.
（長い間生物学を学んだ）

経験として把握される時間

過ごす時間

We had a good time at the party.
（パーティーでは楽しかった）

限定された時間
数詞 +times で

～回

I go to the dentist two or three times a year.
（年に２，３回歯医者に行く）

限定された時

特定の時

When the time comes, I'll call you.
（しかるべき時が来たら電話します）

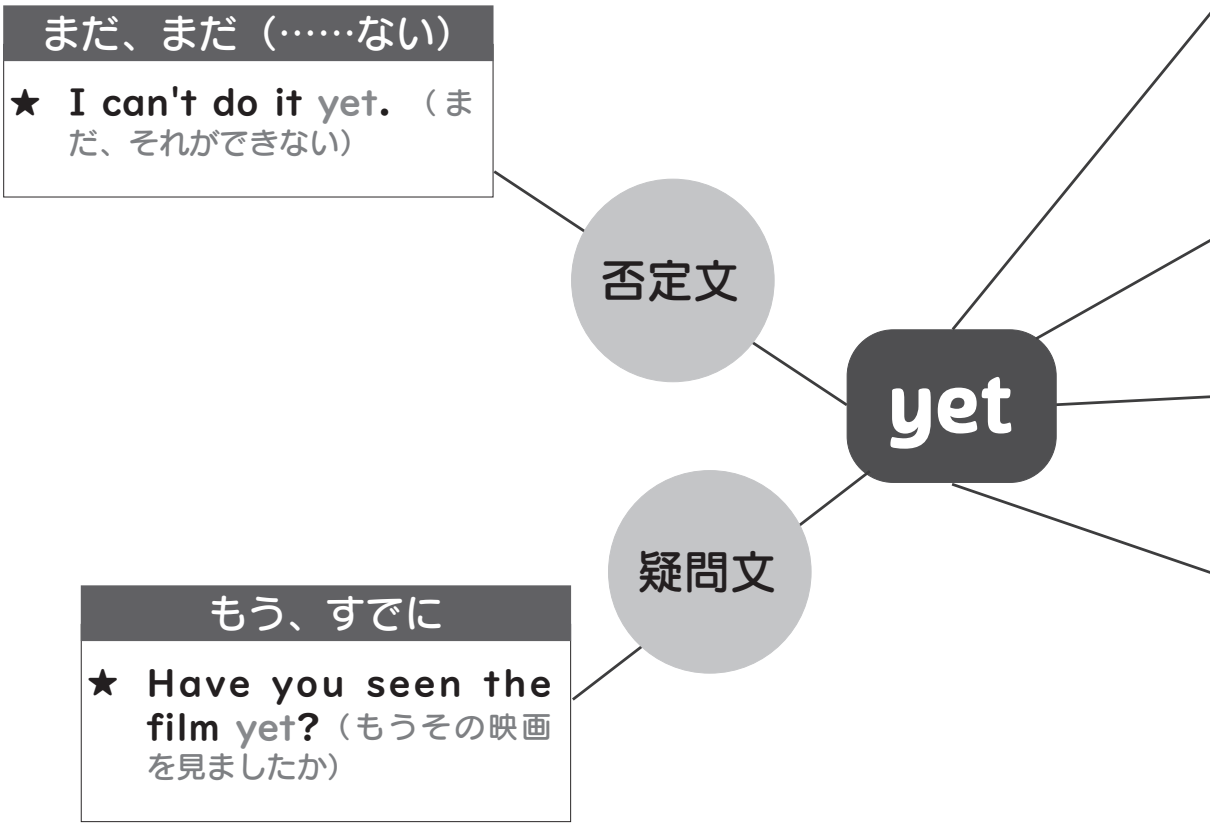
time のフレーズ

have a hard time（苦労する）
waste time（時間を無駄にする）
for the first time（はじめて）
the next time（次に）
time and effort（時間と労力）
save time（時間を節約する）

コア

yet　まだ、もう

yet は文脈によって訳し分ける必要があります。否定文は「まだ（……ない）」、疑問文は「もう（……か）」、肯定文では「まだ（今でも……）」となり、さらに最上級の表現とともに「これまでで」、比較級の表現とともに「なおいっそう」という意味なります。



「…かどうか」のif / whether

もう、すでに

★ I doubt if (whether) she has written the paper yet.（すでにその論文を彼女が書き終わっているかどうか疑わしい）

肯定文

まだ、今でも、依然として

★ There is yet some hope.（それでもまだ希望がある）

最上級

これまでで、今までのところで

★ This is the best line-up yet formed on our team.（これぞ、これまでわがチームで結成された最高のラインナップだ）

比較級

さらに、いっそう（even、still）

★ That's a yet more difficult task.（それはいっそう難しい課題だ）

deep

グーッと深くまで届く

- a deep pond
  （深い池）
- a deep sleep
  （深い眠り）
- a deep thinker
  （物事を深く考える人）
- a deep voice
  （腹の底から出る低い声）

shallow

浅い

- a shallow river
  （浅い川）
- a shallow dish
  （底の浅い皿）
- a shallow person
  （浅はかな人）
- a shallow argument
  （浅はかな主張）

deep は、垂直の深さだけでなく、**a deep tunnel**（ずっと奥まで続くトンネル）のように、水平の奥行きも表します。**There seems to be a deep meaning in his words.**（彼の言葉には深い意味がありそうです）のように、意味の深さとか、精神的な深みを示すこともあります。

shallow は、川や皿などが垂直方向に「深さがなくて浅い」というのが基本的な使い方です。人格や考えなどについて、「深みがなくて浅はかな」となることもあります。**lead shallow lives**（（精神的に）深みのない生活を送る）もその例です。

big

（感情を込めて）おおきい、デカイ

- a big boy
  （大きく成長した子）
- a big issue
  （大問題）
- a big eater
  （大食い）
- a big name
  （有名人：デカデカと知られた名前）

large

（客観的に、サイズ・規模が）大きい

- a large house
  （大きな家）
- a large number of guests
  （多数の客）
- a large audience
  （大勢の聴衆）
- a large data base
  （情報量の多いデータベース）

big は、客観的なサイズ・規模の大きさを表すこともありますが、主観的に「（強さ・大切さを伴って）おっきい！」という感じを伴う傾向があります。**He is a big man.**（彼は大きい人だ）も、文脈によって、「彼は大物･偉い人だ」のように、単なるサイズの問題ではなく、主観的な印象を表すこともあります。

large は､客観的に大きいということです。 **big** のように｢わあ、おっきい！」という感じではなく、冷静にサイズ・規模の大きさを表します。洋服などのサイズの **S, M, L** は、それぞれ **small**（小）、**medium**（中）、**large**（大）です。特大は、日本では **LL** と言いますが、英語では **XL**（**extra large**）と言います。